23rd Annual Meeting of the Japanese Association for Metastasis Research

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39649

『学会開催報告』

第23回日本がん転移学会 学術集会・総会

23rd Annual Meeting of the Japanese Association for Metastasis Research

金沢大学医薬保健研究域医学系　がん局所制御学
伏　田　幸　夫

平成二十六年七月十日（木）、十一日（金）の二日間、金沢市文化ホール、金沢ニューグランドホテルにおいて、第23回日本がん転移学会学術集会・総会を開催させていただきました。開催前日は七月としては珍しく台風上陸の影響が心配されましたが、前夜祭においても雷は多数落ちたものの、雨の降ることはありませんでした。学会期間中も一日目に小雨がぱらつく程度と天候にも恵まれ、基礎医学系の先生方もさることながら今回は臨床系の先生方にも多数参加していただき、2日間で計334名の参加者でありました。

本学術集会は、基礎、臨床、企業の研究者が一同に会し発表・討論するという類い稀なる学会であり、今回は「がん転移を引き起こす微小環境の病態に迫る！」をテーマに掲げ、総演題数194題に活発な討論がなされました。各セッションをご担当頂きました座長ならびに演者の先生方に感謝と御礼を心より申し上げます。

シンポジウム「がん細胞の転移形質」で幕を開け、他のシンポジウムとして「がん間質内での免疫寛容と転移」「がんの進展・転移形成における血小板の役割」、ワークショップ「胸膜・腹膜播種の病態と最新治療」「大腸癌肝転移の病態と最新治療」「高度リンパ節転移症例に対する治療戦略」、教育セミナーとして「がん免疫治療における免疫寛容の対策と工夫」と題し、遠藤　格先生（横浜市大）と神垣　隆先生（瀬田クリニック）にご講演いただきました。

総会においては、第18回学会奨励賞を受賞した園下将大先生（京都大学）と谷口博昭先生（東京大学）が表彰されました。また、第24回学術集会・総会会長である大阪府立成人病センター研究所の伊藤和幸先生から来年の抱負を述べていただきました。

本学術集会会長の太田哲生教授による会長講演では、これまでの常識を覆す新たな視点から、①膵癌は決して“hypovascular tumor”ではない！②癌間質内において血小板は血管外に遊走し、癌細胞の上皮間葉転換（EMT）や免疫寛容状態を誘導する③膵癌の微小環境再構築に向けた新規治療法の開発の提案、について発表しました。

イブニングセミナーでは「骨転移の病態と最新治療」をテーマに前田浩幸先生（福井大学）には乳癌骨転移に対してエストロゲン誘導体をもちいたPET検査による内分泌治療の効果予測の可能性について、矢野聖二先生（金沢大学）には肺がんの骨転移のメカニズムと分子標的治療についてご発表いただきました。もう一つのイブニングセミナーとして「オキザリプラチン誘発性肝障害の病態と最新治療」と題し、大腸癌肝転移症例に対する化学療法後に安全な肝切除が行われるための新しい知見が発表されました。今回、発表はすべて英語表記でありましたが、ポスターセッションは大いに盛り上がり、質問が飛び交う活気のある会場は、空調を最大限にしても熱気が充満していました。今回は座長に加え、より活発な討論になるようコメンテーターの先生も事前に指名させていただいた点が功を奏したものと自賛しているところです。

全員懇親会では、名誉会員として曽根三郎先生を、功労会員として宮崎　香先生と久保田俊一郎先生のご紹介とともに代表して宮崎先生が壇上で表彰されました。

2日目には、今年、第18回研究奨励賞を受賞された先生にInternational sessionにおいて園下先生には「Identification of therapeutic targets in colorectal cancer metastasis using genetically engineered mouse models」を、谷口先生には「Developing novel strategies for treatment on cancer metastasis」について英語で講演していただきました。

ランチョンセミナーは2日間で3つの講演を企画しましたが、いずれも臨床の場からの視点で問題点を掘り下げて、新たな方向性を示していただけたものと思われます。金沢の中心地が会場でしたので、ランチを会場外に求める参加者が相当いるであろうと思っていたところ、会場は予想外の盛況で、用意していた弁当が足りずに急遽追加注文するといった場面もあり、参加者の学問に対する真摯さを改めて実感した次第です。

最後になりますが、本学術集会・総会開催・運営に多大なご協力・ご協賛いただきました企業・団体各位ならびに金沢大学十全医学会、金沢大学第二外科同門会の皆様方には金沢大学 消化器・乳腺・移植再生外科のスタッフと共に、心より熱くお礼申し上げます。